

所在地：長野県飯山市 選定年月日：平成27年1月26日 面積：389.7 ha 選定基準：二(一)(三)(五)(八))

(1) 概要

小菅は、長野県北部の飯山盆地東縁に営まれる集落で、小菅山山麓の緩斜面上に広がっています。集落を囲む山々ではブナ群落・ナラ群落等が卓越し、それらはかつて薪炭材等に利用されたほか、集落内でもカツラ・ケヤキなどの樹木が植えられていて、小菅神社の例大祭である「小菅の柱松(はしらまつ)行事」に用いられています。

小菅山は7世紀前半に遡る修験の山であり、戦国時代には北信から上越に及ぶ信仰圏を誇ったとされています。小菅神社の直線的な参道の両側に方形の区画を持つ坊院群が密集する古絵図が伝わっており、現在も、当地で産出する安山岩を用いた石積み等で区画された地割が、居住地及び耕作地として継承されています。

小菅では、山体崩壊により生じた湧水等を居住地に引き込み、カワ又はタネと称する池で受け、洗いの・消雪等に利用しています。また、集落北方の北竜湖から用水を引き、居住地背後の水田・畑地の灌漑に利用しています。水路の維持・管理など集落の共同作業はオテンマと称し、地域共同体の紐帯として機能しています。

小菅の里及び小菅山の文化的景観は、小菅山及びその参道沿いに展開した計画的な地割を持つ集落景観で、カワ又はタネと称する水利が特徴的な文化的景観です。



小菅の里 遠景



集落内の参道「カイド」から妙高山を望む

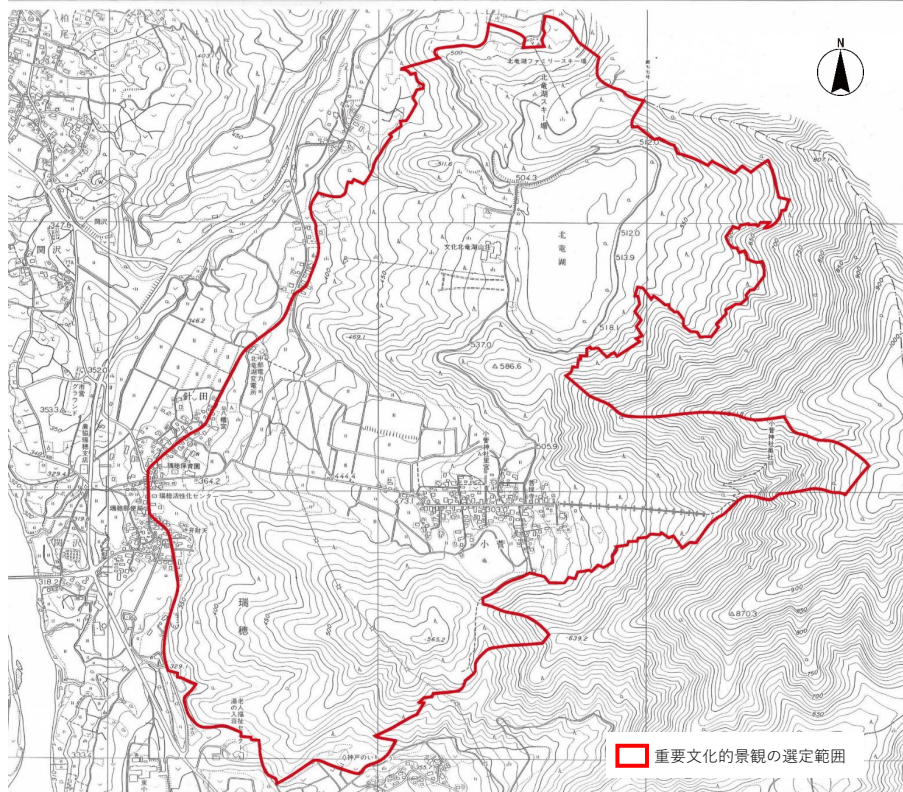


小菅の柱松行事



オテンマ

（２）選定範囲



- ・ 重要な構成要素：111件
- ・ 国指定等文化財：小菅神社奥社本殿附宮殿（重要文化財）、小菅の柱松行事（重要無形民俗文化財）

（３）選定による効果

重要文化的景観の選定後、住民たちの意見やアイデアを盛り込んだ住民主体の、重要文化的景観に関する整備計画書を策定しました。計画をもとに文化的景観制度を活用した民家の修復が進められ、また地域住民の念願であった地域のシンボルのひとつである護摩堂の大修理が行われました。

少子高齢化が進むなか、地域で新たに動き始めている民間団体などと連携を図りながら内外からの支援の輪を広げるための新しい取り組みが始まりつつあります。



小菅の将来について語らう住民たち



大修理を終えた小菅の護摩堂

（４）保存活用計画などの基礎情報

- ・ 保存活用計画 文化的景観「小菅の里」（平成26年3月、飯山市）
- ・ 「小菅の里及び小菅山の文化的景観」整備計画―大切な地域の宝を将来へ引き継ぐために―（平成30年3月、飯山市）
- ・ ホームページ

<https://www.city.iiyama.nagano.jp/soshiki/shimingakusyusien/bunkazai/>

（５）活用事例

事例20-02 ①

住民の一言からはじまった、技術を学ぶ石積み修理

文化庁補助金

●行政と住民等の協働による取り組み

集落の景観の特徴のひとつである居住地や耕作地の石積み(重要な構成要素)は、かつては住民自らが積み直しを行って維持してきましたが、今では積める人がいなくなり、崩れたまま放置される状況も見受けられるようになりました。

整備計画策定に向けて住民と検討を行うなかで、住民から、「かつてのように自分たちの手で積み直しができるよう技術を習得したい」という声がありました。

そこで、石積みの積み直し技術の習得を目指すとともに、小菅の石積みの特徴やその価値の理解を深めることを目的に石工による講習会を、市として開催しました。

講習会には集落内外から多くの人に参加し、石工から技術を学びました。そして、空石積みの石積み景観がよみがえりました。

石積みの積み直し講習会参加者の声

自分たちの手で積み直すことができ、とても勉強になりました。今後自分での積み直しに挑戦したいと思います。



石積み作業をする住民たち



模型を用いて石積みの構造を学ぶ



修理前



修理後

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す開発

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり

(5) 活用事例

事例20-02 ②

小さな集落における地域を支える人材を招き入れるための取り組み

●住民や団体等による取り組み

30年後には人口が半減すると予想される集落において、関係人口と、地域の担い手となる人材を招き入れる取り組みが行われています。

空き家となっていた築約200年の古民家(重要な構成要素)を市が購入、総務省の補助金(過疎地域遊休施設再整備事業)を活用して改修を行い、平成30年に観光交流施設「小菅の里七星庵」が竣工しました。指定管理施設として、観光協会と集落内に拠点を構えるまちづくり会社「みずほらぼ」により運営が行われています。一棟貸しの宿泊利用のほか、来訪者に向けて歴史探訪ガイドや農業体験などのワークショップを行い、都市と集落の交流を促し地域活性化を図るための事業が行われています。

また、地域の担い手となる人材を確保するため、小菅区と一般社団法人未来社会推進機構は協定を結び、空き家を活用した移住サポートをはじめ、将来の地域を担う活動人口を増やすための取り組みを進めています。

移住者の声

地域おこし協力隊として小菅に移住して観光振興や農業に関わる活動を行っています。当たり前の風景は外から見ると興味深いもので、地域の人に地元を知ってもらう活動も大切だと考えています。



一棟貸し宿泊施設小菅の里七星庵



施設内は古民家の趣を味わえる
(写真：小菅の里七星庵ホームページより)

未来の人・大募集

小菅集落 ～水を祀る人求む

水に従い五穀成就、万民を豊かにする一千年の伝統こそ日本の未来を明るくします。

[条件]

- 年齢・性別不問
- 環境・景観保全と修験文化に興味のある方
- 伝統祭事に参加できる方
- 地域の共同作業に参加できる方

[支援]

- 集落の古民家等の空き家・空き地の紹介
- 農地の輪転・農家の指導など全面協力
- 歴史・伝統文化の学習機会の提供

小菅集落 一同

集落の担い手を募集する
(一社)未来社会推進機構の
ホームページ



団体等情報：小菅の里七星庵 <https://kosuge-nanahoshi.jp>
株式会社 みずほらぼ <https://mizuholab.jp>
一般社団法人 未来社会推進機構 <https://mirai-ss.org>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 資源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人育